

巻頭のあいさつ

熱膨張計が新しくなりました!

昨年の平成 29 年度補正ものづくり補助金を利用したことで熱膨張計が新しくなりました。

3年前にも一度選ばれましたので、申請書を書くこと自体は前回に比べ、ラクではありました。ものづくり補助金の公募がすでに6年目だったこともあり、新しい採点項目が追加され、前回より厳しい条件をクリアしなければなりませんでした。

その条件を満たし合格ラインを越えられるよう、今回もたくさんの方にお力添えをいただきました。ありがたいかぎりです。

おかげで無事に採択され、昨年末に古い熱膨張計を新しくすることができました。補助事業の実施にあたっては、佐賀県地域事務局の方々の手厚いサポートによって、スムーズに進めることができました。あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

熱膨張計は、焼き上がった素地や釉の加熱時の伸びを測定する装置です。その測定によって、膨張率や熱膨張係数（平均線膨張係数）などの数値が得られます。

熱膨張係数を把握することで素地と釉の



NETZCH 社製
熱膨張計 DIL-402

相性がわかります。測定結果の数値がどのような関係にあるのかによって冷め割れや貫入など、適切か不適切かの状態を判別することができます。

以前、ブログで紹介しておりますが、素地と釉の熱膨張係数の組み合わせのパターンは次の4つです。

- 1 素地 > 釉 → **冷め割れ**：素地にも釉にも亀裂が入る
- 2 素地 > 釉 → **適正**：素地が釉より少し大きいと冷め割れも貫入も起こらない
- 3 素地 < 釉 → **場合によっては貫入が入る恐れがある**：数日後あるいは上絵焼成後などに
- 4 素地 < 釉 → **貫入**：差が大きいほど釉のみに細かな亀裂が入る

熱膨張は工業技術センターなど公設機関で測定可能です。当社でも有料にて承ります。まずはお尋ねください。

「あなたの悩みはどっち? 冷め割れ? それとも貫入?」>>>

<https://www.fromform.jp/blog/2018-8/>

瀧野直幸



ブログで
公開中!

ここ数年の間に定年などで社員さんの退職者がありました。入れ替わった新しいメンバーを紹介していきます!

入社して3年目になります。娘と息子、2人の子供がいる46歳です。パート勤務で一日に4時間、真空土練機を使った出荷作業やスタンパーに陶石を入れる作業などを行っています。



岩見です

対馬の現状

前編

「対馬」は古代より防人が置かれ、日本の国境最前線にある島です。

漁業や建設業が主な産業で、1950年代は7万人を超えていた人口が、今では3万人ほどになっています。

高校を卒業した若者の大半は進学や就職で島外に移住。専門学校などへ進学する子どもを持つ父親は、学費を賄うために出稼ぎで離島。このような状況は今後も続き、このまま過疎化が進んで、経済疲弊は免れないように感じています。

そんな現在の対馬には、年間40万人を超える韓国人観光客が押し寄せてきます。韓国人資本の土地・宿・飲食店・免税店や観光バスが沢山増えました。そして、島民の中にもその資本に肖ろうとする者もいます。

2000年ごろから観光目的の韓国人が増え始めました。それに伴い増えていく観光収入。このことに気をよくした元市長は、10年間無税という条件で国際航路を運営する韓国資本の会社に韓国人宿泊用のホテルを誘致。実は

この会社は、竹島と釜山の間の航路も運行しているのです。

その後も観光客は増え続け、10年が経って課税の年になった途端、釜山と対馬間の航路を運休。パタリと韓国人が来なくなりました。慌てた元市長は観光客を呼び戻します。何をしたのかは闇の中です。

たしかに最初のころは対馬にお金落ちていました。ところが、これに目を付けた韓国資本が、どんどんと入り込み、宿泊・飲食・買い物・移動など、観光に関わる店舗の多くは韓国人オーナーになっていきました。そして、観光客は韓国内の旅行会社により、意図的にそれらの店に誘導され、その結果、対馬の地で韓国人が韓国人を相手に商いをする、という構図になってきています。

3万人の住民に、40万人の観光客。韓国まで直線距離で49.5キロ。何か意図があると感じずにはいられません。

対馬の行く末を案じている最中、微用工訴訟から波及した日本の韓国に対する優遇措置撤回によって、韓国人観光客が突然超激減!! (後編につづく)



はじめまして。八重島窯業原料㈱と申します。

私共は長崎県の「対馬」で「曹(ソーダ)長石」の採掘販売を大正時代より100年間続けております。

対馬長石(対州長石)は「碇子(がいし)」用原料から始まり、注射器やアンプルなどの「ガラス」、タイル目地の「白色セメント」、塗料原料として波佐見・有田焼などの「食器」、トイレや洗面台の「衛生陶器」、などなど様々な用途で皆様にご愛用いただいています。

平成4年には蛍光X線化学分析装置を導入、品質管理を徹底し、限りある大切な資源の有効活用と安定供給に全力で向き合っているところです。是非この機会に弊社ホームページをご覧ください。



HP→<http://www.yaeshima.co.jp>

対馬(対州)長石採掘場

Hinaの 気まぐれだいありー



はじめまして。長女の日菜です。

ピンチヒッターとして、というよりは強制的に書かされています(笑)。

前回の記事で父が紹介していましたように、今年の3月に福岡の中村学園大学を卒業しました。教育学部児童幼児教育学科を専攻していましたので、小学校の教員を目指しています。

目指しています、というのは昨年の佐賀県の採用試験で不合格、今年もう一度受験するからです。現在は、地元の小学校に臨時講師として勤めています。

書けと言われたものの、何について書こうか迷いました。考えた末、今年のゴールデンウィークに友達のフミちゃんと二人で沖縄へ行ったときのことを書こうと思います。

大学時代に学生寮で知り合ったのがフミちゃんです。彼女は短期大学の幼児保育学科。私とは違う専攻でしたが、同じ寮で生活をしていました。卒業した今でも一緒に遊んでいて、「おばあちゃんになってもずっと友達でいる自信があるねっ」と、お互いに言いあっています(笑)。

そんな彼女と旅行。二人とも初めての沖縄でした。行く前に想像していたより何倍も楽しかったです。

フミちゃんも私も旅はノープランというタイプなので、今回の沖縄も行き当たりばったりの旅でした。地元のお店の方と一時間立ち話するなんてことも(笑)。今でもフミちゃんと会えると、このときの話をして笑っています。

沖縄といえば海、もちろん行きましたよ！ シュノーケリングで魚のエサやり体験をしました。エサをばらまきすぎて魚に囲まれるというハプニングもありましたが、沖縄の海は本当にキレイでした！

他には、美ら海水族館に行ったり、キャンドルを作る体験をしたり、もずくの天ぷらを食べたり…、いろいろなことを体験しました。楽しいことばかりで2泊3日の旅はあっという間に終わってしまいました。帰ってきたすぐから、また沖縄に行きたい！と思っています。 瀏野日菜

シュノーケリングで
エサやり体験



迫力満点の
ジンベエザメ



フミちゃんとタコの
モニュメントの前でっ



りで2泊3日の旅はあっという間に終わってしまいました。帰ってきたすぐから、また沖縄に行きたい！と思っています。 瀏野日菜

＼ありがとうございます！

工場見学にお越しいただきました！

工場見学は、事前に連絡をいただいた上で随時受け付けております。

矢次様の作品



佐賀県窯業技術センター
人材育成課の研修生(9名)

岐阜県在住の
矢次美穂さま

有限会社 瀏野陶磁器原料

〒849-1426 佐賀県嬉野市塩田町大字五町田乙 287-1

TEL 0954-66-4207 / FAX 0954-66-3747 / E-mail info@fromform.jp

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要のない方は、たいへんお手数ですがその旨を上記までご連絡ください。

第18話 会長さんの 昔話



昭和53年ごろ、共立製磁(現在は共立エレクトロニクス)さん向けの電子部品用アルミナ磁器坯土の生産が終わりしました。そのため、それまで使っていたボールミルが空くことになりました。2台でスタートしたボールミルは、その頃は4台に増えていました。これらの機械を遊ばせておく

わけにはいきません。そこで、スタンパー(キネとウス)で作った粘土を納めていた地元の食器業界に、ボールミルで粘土を作り、それを使ってもらおうと考えました。この頃、地元の食器業界の景気は非常に良く、同業者の組合(当社も組合です)の集計によると、この頃から数年間ひと月あたり3000トン以上の粘土を作っていました。組合に加入している粘土業者全体の生産量が最大になったのがこの時期でした。

この当時は、ボールミルで粘土を作るための調合のノウハウを全く持っていないものでしたので、見よう見まねで何度か試作をし、これならスタンパーで作った特上(最上級)粘土と同程度の焼き上がりで、白さで、価格をグンと安く設定できるという調査割合を見つけた。

村土粘土は共立窯業原料(現 共立マテリアル)さんからいただいていた。調査が見つかり、量産化に向けた試験を行い、生産の目的が立ちました。地元の方たちが使っていたスタンパーで作った粘土ではありませんでした。食器業界の好景気が、食器全体の需要が高かったこともあり、白く焼きたてもあり、安く粘土を受け入れてくださるお客さまがいて、徐々に生産は軌道に乗っていました。

当時の製品



人たちがいたのです。私たちは同じ町内の飲食店に呼び出されます。座敷に上がると、向かいに座るよう促され、脅かされ、取れる説教を聞かれました。その相手とは・・・(次号につづく)

NEW

“ジキよまんば!”をお読みのみなさまにちは! 今号から編集・制作を担当させていただきますサン・マリンデザインオフィスの友永と申します!! 現在、娘(生後8ヶ月)の育児と仕事の両立に奮闘中☆どうぞよろしく願いいたします!

お気軽にお問合せください
ジキよまんばの感想も♪

瀏野 陶磁器

<https://fromform.jp/>

